信濃毎日新聞　１月１８日　掲載

信濃毎日新聞

駒ケ根工高生が研究成果発表会

人工衛星開発挑戦 報告も

人工衛星開発の研究について発表する駒ケ根工業高校の生徒

駒ケ根工業高校(駒ケ根市)3年生116人が17日、個人やグループで4月から取り組んできた研究の成果発表会を校内で開いた。人工知能(AI)に気象データを学ばせて天気予報を出す、小型無人機ドローンを被災地で使うなど34テーマ。代表者がスクリーンを使って報告したり、ポスターで展示したりした。全校生徒や保護者、企業関係者ら約450人が参加した。

全国の工業高校と連携して小型人工衛星を開発している生徒4人は、本物と同様のモデルを作り、オーストラリアの研究機関で意見交換したことを紹介。「受信環境など課題がまだあるので、後輩に引き継ぎたい。経験を今後に生かしたい」と話した。

長男が同校に通う会社員、宮沢剛さん(46)＝駒ケ根市＝は「専門的な勉強をし、実用的なことを工夫して考えていて感心した」と話した。

この記事・写真等は、信濃毎日新聞社の許諾を得て転載しています。
【許諾番号】shin2018-komakou 74s